

学校給食記念日（1月24日）〔1月25日（月）のランチトピックより〕

1月24日は「学校給食記念日」です。そして、1月24日から1週間を「学校給食週間」としています。学校給食は、明治22年に山形県で貧しかった小学生に無料で昼食が出されたのが始まりとされています。その後日本各地に広まりましたが、戦争により一時中断されてしまいました。戦後日本中が食糧不足で大生の子どもたちが栄養失調になりました。そこで、アジア救済公認団体により緊急に脱脂粉乳や小麦粉などが送られ、今から71年前の昭和22年12月24日に再び学校給食が始まりました。しかしこの日が今の学校の冬休みと重なるため、1か月後の1月24日を「学校給食記念日」としました。当時の給食は煮物などのおかず一品と脱脂粉乳、ご飯でしたが、食糧不足だった当時は残さず大事に食べたことでしょう。食生活が豊かになった今の日本では食べることに不自由することはなくなりました。

しかし、今でも食糧不足で食べたくても食べられない人たちが世界にはたくさんいます。食べ物をたくさん持っている私たちは食べ物を粗末にしても良いのでしょうか。この機会にもう一度「食べることの大切さ」について考えてみましょう。

読書感想画コンクール

子どもたちが本の感想を絵で表現する読書感想画中央コンクール（全国学校図書館協議会・毎日新聞社など主催）の福島県審査会において、1年2組の宮崎詩織さんの絵が優秀賞に選ばれ、全国審査会に出品されることになりました。宮崎さんは、ジェイソン・レイノルズの『ゴースト』を読んで感想画を描きました。

【中学校（指定）】

『ゴースト』
「走れ！ゴースト」

西郷村立西郷第二中学校1年
宮崎 栞



【宮崎さんから】

私はこの本を読む前はスラム街に良いイメージを持っていませんでしたが、スラム街にもいろんな人がいて、チームで協力しながらがんばったり、それを熱心に支援する人もいたりして、イメージがずいぶん変わりました。

父親に銃を向けられた日から主人公のキャスが変わっていきます。その変化の様子を絵にしました。建物の古い感じを出すのに苦労しました。また光の様子に気をつけながら制作しました。

『ゴースト』 ジェイソン・レイノルズ著

中学一年の少年キャスは、父親に銃を向けられ、家から逃げだした過去がある。足の速さから自分でつけた呼び名はゴースト。陸上チームに入った彼は、チームメイトとの関係を通し、自分の才能と弱さに向き合っていく。

実用英語技能検定・日本漢字能力検定実施

1月22日（金）、第3回実用英語技能検定一次試験が実施され、準2級に1名、3級に4名、4級に6名、5級に4名が挑戦しました。

また、1月28日（木）には第3回日本漢字能力選定が実施され、2級に1名、準2級に1名、3級に2名、4級に3名、5級に1名が挑戦しました。

各種検定試験は自分の実力にあった級に挑むことが可能です。子どもたちがスモールステップにより自分の能力を伸ばすためにこのようなチャレンジをすることは、とても喜ばしいことです。結果が楽しみです。

さて、日本漢字能力検定から2級レベルの問題です。次の漢字は何と読むでしょう？

【 悪寒 ・ 固唾 ・ 瓦解 】

リモート豆まき

今年の節分は2月2日（火）ですが、西二中では1日前の2月1日（月）、全校朝会に合わせて生徒会主催のリモート豆まきを実施しました。

生徒会役員が節分の趣旨説明を行った後、校長以下4名の職員が扮する鬼の登場とともにスタジオ室が修羅場と化すも、生徒会役員と教室の子どもの活躍（豆まき）により鬼たちが無事成敗されました。そのあとです。折しも鬼が話題となった今年度、生徒会役員に乗り移った上弦の参猱窩座（あかざ）と炭次郎がいずこからか現れ、全集中水の呼吸一の型水面斬りを放ち、たちまち失せました。

楽しいリモート豆まきでした。

